

<p style="text-align: center;">2017/7/3-7/9</p> <h2 style="text-align: center;">デボーションガイド 「ユースマナ」</h2> <p>詩篇 27:4</p> <p>私は一つのことを主に願った。 私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。</p>	<p style="text-align: center;">2017/7/3(月)</p> <h3 style="text-align: center;">詩篇 129 篇</h3> <p>この箇所「私」はイスラエル民族のことを指しています。イスラエル民族は神様による苦難からの救いを幾度も経験してきました。2 節は特に、出エジプトの出来事が思い起こされますね。イスラエルはおよそ 400 年間エジプトに滞在しました。数も増え、力を増すイスラエル民族を恐れたエジプトは、彼らに苦役を課して苦しめます。200 万人はいたであろうイスラエルのエジプトからの脱出は神様による奇跡なしには考えられない出来事でした。神様は彼らの奴隷としてのくびきを「断ち切られた」のです。 詩篇には神様がなされたことを忘れずに語り継ぎ、感謝するように繰り返し書かれています。私たちのことばで、神様に感謝を言い表そう！神様は私たちに何をしてくださっただろう？</p>	<p style="text-align: center;">2017/7/4(火)</p> <h3 style="text-align: center;">詩篇 130.131 篇</h3> <p>深い淵にいるような絶望を味わった事はあるかな？？そんな時きみはどうするかな？？ただ呆然とするかもしれないね。 この作者は、そんな中で神様を待ち望んだよ。神様を、神様のことばを、待ち望む時、母親の前にいる乳離れした子のように守られた安心、信頼の中で待ったんだ。そのような愛が私達に注がれている事は、イエス様の身代わりの十字架によって分かるよ。 どんな事が起きても、神様の愛が注がれている事に目をとめて、自分のその問題に御国がくるように祈ろう！！</p>	<p style="text-align: center;">2017/7/5(水)</p> <h3 style="text-align: center;">詩篇 132 篇</h3> <p>この詩篇はダビデを思い起こして作られた歌である。前半は、ダビデがエルサレムに神殿を建て、神の箱をそこに運び入れようと努めたけれど、神様がそれを許さず、ソロモンに託すようにとお命じになったその経過の中のダビデの苦しみを思い起こし、祈られている。後半は、ダビデの信仰に答えて、主が誓い、また与えられた約束が記されている。神様の約束は真理であり、揺るぐことはありません。主が私たちを通して行いたいと思っていることを知ることができるよう。また、苦しみや悲しみにあるなかでも、主の約束が私たちにあることを覚え、信頼して歩むことができるように祈ろう。</p>
<p style="text-align: center;">2017/7/6(木)</p> <h3 style="text-align: center;">詩篇 133.134 篇</h3> <p>133 篇は、同じ思いで神の宮に集まっている仲間たちと分かち合う楽しさと喜びの賛歌である。それは 1 節によく表わされている。 134 篇は、神の宮に仕える人々への呼びかけである。それは 1 節のことばに見られるように、主をほめたたえましょうという、祭司やレビ人への呼びかけである。 同じ思いの仲間がたくさん与えられていることに感謝しよう！！そして、より神様にある一致を覚え、従っていく祈りをしよう！！</p>	<p style="text-align: center;">2017/7/7(金)</p> <h3 style="text-align: center;">ヨハネ 1:1-13</h3> <p>神様が私達への最高のプレゼントとして用意されたのがキリストであり、具体的にはそのキリストの死によって私達の罪が許され永遠の命を受けるようになる事です。 その神の子となる地位と立場が人に与えられた最大の特権です。 また、神様がことばを用いて世界を作ったように、ことばによって私達は喜んだり傷ついたりと力があります。ことばを使う時に人に対しても自分に対しても聖霊に聞こう！ 神様のことばを聞き分ける事が出来るようにと祈ろう！</p>	<p style="text-align: center;">2017/7/8(土)</p> <h3 style="text-align: center;">ヨハネ 1:14-28</h3> <p>『ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。』世界のすべてをつくり、ことばを必ず実行している神様が、人となられたことの奇跡を味わおう！ 何でもできる神様が、わざわざ制限のかかる人としてこの世に來た。とっても不自由なことだろう。だけど、イエス様は人としてきて、天のお父さんの心をすべて行った。 それは私たちに救いを与え、これからの生き方に見本を見せるためだ。その預言は旧約の時代からされていたね。そのくらい神様は私たちを愛してくれてるんだ！ 神様の愛を受け取り、神様が人として来てくださったことをどう思うか？友だちとも話してみよう！</p>	<p style="text-align: center;">2017/7/9(日)</p> <h3 style="text-align: center;">ヨハネ 1:29-42</h3> <p>バプテスマのヨハネは、イエス様に対し、あの方は「私より先におられた方」であることを言い、イエス様の本質を見通していました。それはメシヤには聖霊が鳩のように下るとの預言が与えられていて、それが実際にイエス様に起こったことを見たからでした。 ヨハネはそれまで自分についてきていた人をイエス様のもとに行かせ、自分の弟子であった二人がイエス様のもとに行くことをよしました。ここからはヨハネの謙遜な性格が見られます。 ヨハネの弟子の二人はイエス様についていき、二人の名はアンテレとこの福音書の著者であるシモンをイエス様のもとに連れて行き、それをイエス様が引き受け、シモンをペテロという名に変えて行かれた。 私たちはすぐに高ぶった行動をとってしまいます。ここからヨハネの謙遜さを学びます。</p>

